

## PWE (Paddy and Water Environment) 誌の4年間と今後の展開 Perspectives and latest 4 years' progress of the PWE Journal of PAWEES

増本隆夫\*

MASUMOTO Takao\*

### 1. はじめに

これまで、一流英文誌の発刊、インパクトファクター(IF)の取得、モンスーンアジアの水田農業研究の世界への情報発信を目指し、PWE(Paddy and Water Environment)は農業農村工学会が支え、Springer社が発刊する国際誌として一定の評価と位置付けを得てきた。日本側のPWE編集体制を大きく作新して二期4年が経った中で、2017年IFとして1.379の獲得、2018年11月のPAWEES-INWEPF合同奈良2018会議における優秀論文選抜号(2号分)も含め3冊の特集号の発行等を行ってきた。同時に、台湾や韓国からの編集員構成も大きく変化するとともに、本年7月には日本担当の新たな体制をスタートさせた。この4年間を振り返り、同誌の今後を展望してみたい。

### 2. PWE 掲載論文の現状

PWEは、2003年創刊から年間4号、18巻の発行を重ねてきた。2017年からは、それまでの1巻あたり40~50本の論文印刷数を、80本前後に増大させた。そのため、2017~2019年に投稿された筆頭著者の所属国は53カ国に及び、まさに国際誌となってきた。ただし、投稿数の上位を占めるのは、中国、イラン、インドである。一方で、欧州や北米からの論文数やダウンロード数も一定の割合を占め、当初のモンスーンアジア水田農業の世界への情報発信の目標は達成されてきた。

2019年のPWEへの総投稿数は255本であり、多くの投稿数が維持されている中で、同年に査読結果がでた本数は186編、その中で、Acceptが41編(22%)、Rejectが145編(78%)と受理に至るには厳しい数字が維持されている。一方、2020年前半でみると、平均で初回投稿から、最初の判定に56日、Accept判定に252日、Reject判定に48日と、最初の査読結果が出る時間やrejectまでの時間は短縮されているが、受理への時間は依然として時間がかかっている(Table 1)。

IFについては毎年6月末頃に公表され、PWEは獲得年(2012年)0.986の値から、2013年の1.247を獲得して以降低下傾向になり、0.871(2015年)との結果に危機感を感じたが、2018年1.264や2019年1.262へと幾分持ち直してきた(Fig.2)。IFの数値では農学系では概ね中間位の位置にある。投稿数は年間200編以上が維持され、さらに年間の論文ダウンロード数も最近では5万件を越え(Fig.1)、2020年も同様に推移していることから、今後はいかに質の高い論文を掲載していくかが重要となる。

### 3. 4年間で工夫した取組

新しい編集体制(2016年7月)となつてからのPWEの問題点解決の一つとして、IFの向上のため「特別号」(過去に8号分発行)の機会提供を企画した。その結果、2018年16(2)に「Rice Ecosystem Services」特集号が実現し

**Table 1** PWEへの投稿状況  
Submission status of the papers in PWE

Submissions	2017	2018	2019	2020 to Jun 4
Total Submitted	205	234	255	108
Total Decided	187	201	186	38
Accept	49	57	41	19
Reject	138	144	145	19
Acceptance Rate	26.2%	28.4%	22.0%	50%
Rejection Rate	73.8%	71.6%	78.0%	50%
Average Days to First Decision	98	75	48	56
Average Days to Final Disposition Accept	228	288	297	252
Average Days to Final Disposition Reject	110	68	36	48

\* 秋田県立大学 Akita Prefectural University  
キーワード:PWE、インパクトファクター(IF)、編集体制、特集号

たが、その効果が現れたかどうかは定かではない。引き続いて、PAWEES 奈良 2018 会議(平成 30 年 11 月 20~22 日、於:奈良県春日野国際フォーラム)で募集したフルペーパーを活用して、優秀論文を選抜き、PWE の特集

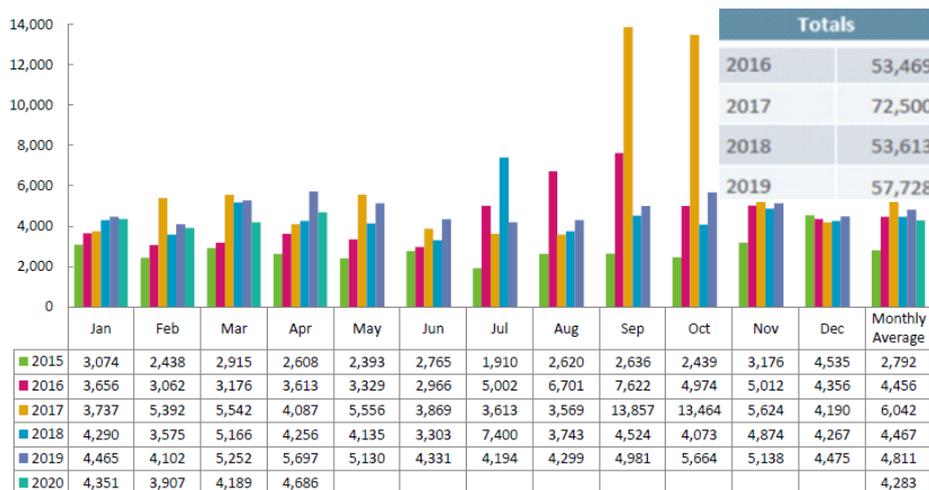


Fig.1 フル論文としてのダウンロード要求数 (2016~2019 年)  
Full-text articles requests (2016-2-19)

号「Smart Management of Land, Water and Environment (PAWEES NARA Conference 2018)」として、公表した。125 本の応募論文のうち、評価の高い順に 56 本を PWE 掲載論文として選抜き、17(2)[2019 年 4 月号]と 17(3)[同 7 月号]にそれぞれ 28 本の論文印刷を行った。この特集号では、フルペーパー投稿から約半年で Online 公表、1 年前後で印刷となり、さらに、通常 (20~25%) に比し 44% の採択率になった。ただし、上記 2 号分の査読作業等は PWE の Editorial Manager 外で行ったため、その査読統計結果は、残念ながら PWE 現状レポートには反映されなかった。

#### 4. PWE 誌の第 3 期新編集体制と今後の展開

2020 年 7 月に新たな Managing Editor(ME)に藤原正幸(京大)、飯田俊彰(東大)、進藤惣治(JIRCAS)の各氏や日本人 Editor 諸氏[木村匡臣(近大)、越山直子(寒地土研)、長野宇規(神大:三期目)、吉田武郎(農研機構)、吉川夏樹(新潟大)]を迎えた。各氏には、一期 2 年間の二期の役割分担を期待したい。これまで 4 年間の編集上の取組は、次のように纏められる。① C(Chief)ME 任期を 2 年とし、台湾(Y-P Lin)、日本(中村公人)、韓国(2020 年 7 月~、Inhong SONG)の順番で交替、② CME(1 名)、ME(6)、Editors(19)の ME の役割明確化と各国増員、Editor の日本人増員(3 から 5)。③ 印刷物のオンライン配信:従来の印刷数(500 部)を 60 部に縮小、論文掲載本数の増大(各号 20 論文(計約 80 論文)の印刷恒常化)、④ PWE 論文情報の学会誌掲載「国際ジャーナル PWE 内容紹介」の記事化、⑤ 組織対応と Editorial Advisors 創設:農研機構、JIRCAS、寒地土研等が組織として編集バックアップと Editing Board の Editorial Advisor (E A)への改称と役割変更等である。

今後の展開としては、上値頭打ちの IF の更なる向上を目指し(1.5~2.0 以上の獲得)、Review papers の企画で各分野から著者候補の抽出、毎号への Editorial の復活、Invited papers の検討等が必要となる。

#### 5. おわりに

特集号 2 号分(17(2)、(3))の評価は、2020 年 IF に顕れてくると予測され、その値がどう推移するかを楽しみに、PWE 編集作業を進めていきたい。

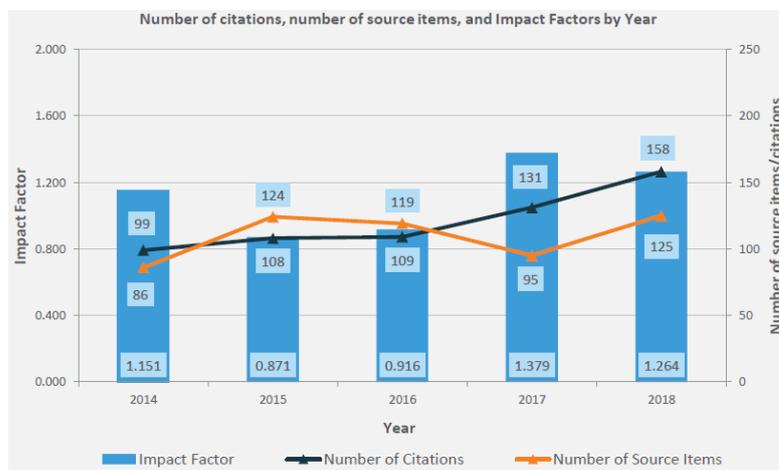


Fig.2 IF の推移  
Change of IF of PWE